開催レポート

ツーリズムEXPOジャパン2026

2年前実績と目標上回る、18万3270人来場

九州復興、園芸博も呼び掛け

「ツーリズムEXPOジャパン（TEJ）2026」が9月24～27日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開かれた。4日間で当初の目標を上回る18万3270人が来場し、2年前の東京開催の来場者数も上回った。今回のTEJは「進化する旅のカタチ」をテーマとし、新設の「TEJコレクション」などでさまざまなツーリズムの形を紹介。常に変化する旅の魅力を発信した。

24日の午前中に開かれたオープニングセレモニーには、日本旅行業協会（JATA）の原優二会長、TEJ実行委員会の山北栄二郎委員長、日本観光振興協会（日観振）の最明仁理事長、日本政府観光局（JNTO）の蒲生篤実理事長の主催3団体トップに加え、来賓には観光庁の木村典央長官、世界観光機関（UNTourism）のイオン・ヴィルク・ディレクター、世界旅行ツーリズム協議会（WTTC）のグロリア・ゲバラ・プレジデント&CEOが登壇した。

冒頭、主催者代表の日観振・菰田正信会長があいさつ。「国内旅行は着実な回復を続け、訪日旅行は引き続き高い水準で推移している。一方、海外旅行は持ち直しつつあるものの、いまだ回復途上にある。今回のTEJには、多くの地域に出展いただいている。国内はもちろん、海外旅行をすることの楽しさも体感していただき、双方向交流のさらなる活性化につなげていきたい」と強調した。

高市早苗首相のビデオメッセージも披露され、九州を訪れ、宿泊、食事をし、地域の物産を購入して地域を応援していただきたい」と強調した。

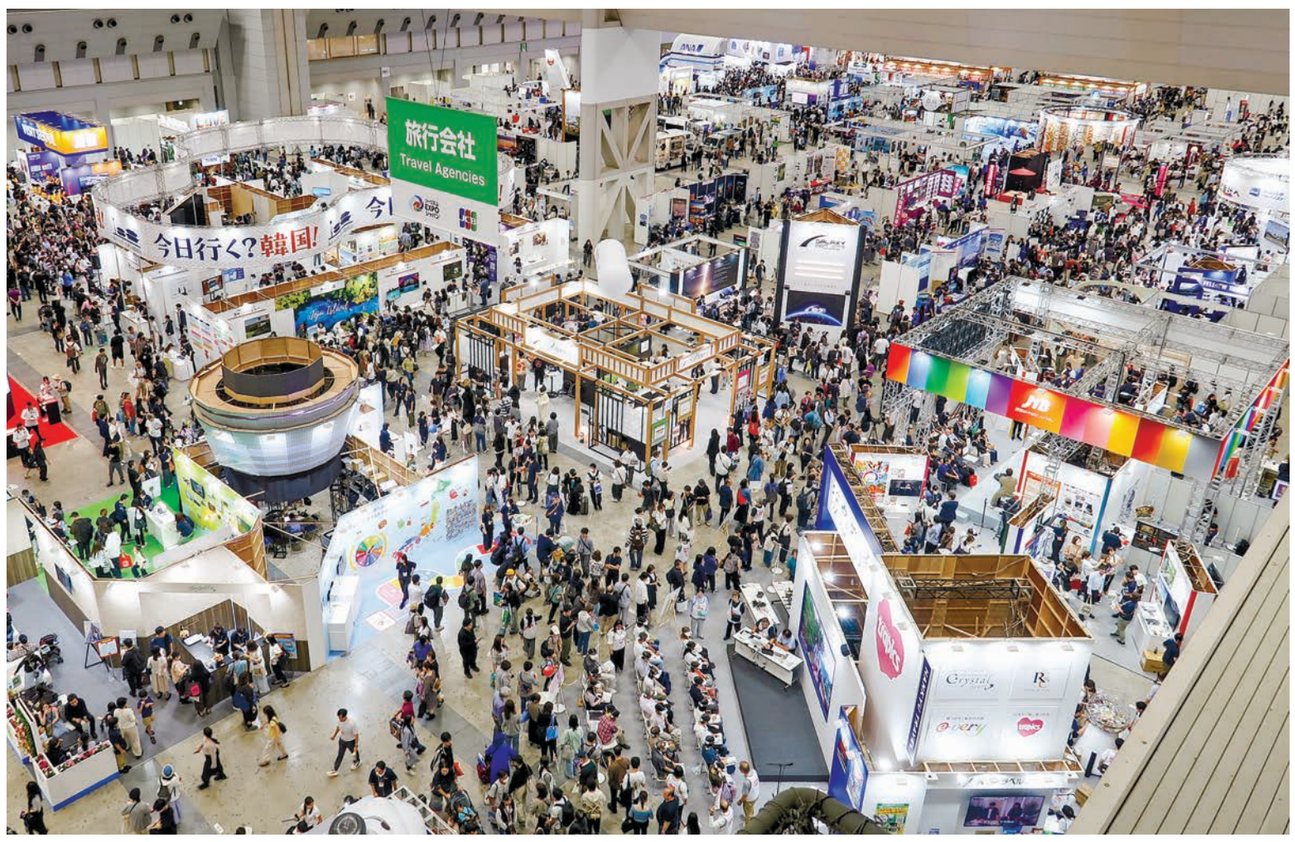
今回の最終的な出展小間数は、初の満床となる1553小間となった。内訳は、国内が619小間、海外が597小間、その他が337小間。うち、国内からは茨城県を除く46都道府県が、海外からは74カ国・地域が参加。合計の出展企業・団体数は1420となった。

商談会については、セラー数が1019人、バイヤー数が855人。商談数は6454セッションとなった。JNTOが同時開催する「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート」（VJTM&VJMM）は遠方のセラーも参加しやすいよう、昨年に導入した「1・5日枠」を今回も設定。こうした効果もあり、参加セラー数は前年実績から約30団体増の約350団体となった。

27日に行われたクロージングセレモニーでは、来場者によるブースの人気投票「ブースグランプリ」の結果発表と表彰式も行われた。一般日、業界・プレス日ともに、「最高賞の「グランプリ」には福井県のブースが選ばれた。一般日と業界・プレス日でそれぞれグランプリを受賞した事例は今回が初となった。全ての受賞ブースは次の通り。

【業界・プレス日】
グランプリ＝福井県▽準グランプリ＝韓国観光公社、台湾観光協会▽特別賞＝嘉手納町▽実行委員長賞＝MEXICO

【一般日】
グランプリ＝福井県▽準グランプリ＝勝運の寺 勝尾寺▽特別賞＝東洋大学国際観光学部▽実行委員長賞＝日本遺産



海外・旅行会社エリアの様子。３日目の９月26日には、会期中最多の６万1300人が来場した







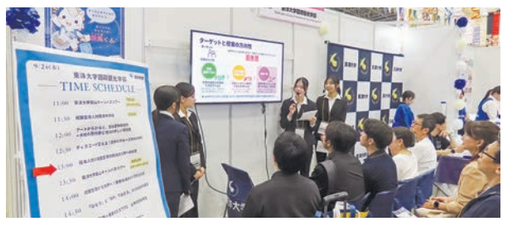
業界・プレス日と一般日のブースグランプリで最高賞「グランプリ」をダブル受賞した福井県のブース

「さまざまな旅の形」を発信
初出展ブースも盛り上がり



初出展となった「向島花街」の芸妓の皆さん


スポーツ庁はスポーツツーリズムの魅力を紹介。写真は空手稽古の様子


学生出展もにぎわった。写真は一般日のブースグランプリで「特別賞」を受賞した東洋大学国際観光学部の研究発表の様子



「TEJコレクションステージ」では、観光学部生の発表やホスピタリティ人材の育成に向けた取り組み発表などに加え、さまざまな旅やアクティビティの紹介も行われた

海外74ヵ国・地域が参加
双方向交流の拡大に期待


初日のウェルカムレセプションでは、国土強靱化研究所代表（全国旅行業協会名誉会長）の二階俊博氏も登壇。観光立国の実現に向け、業界全体での一致団結を呼び掛けた











グランドフィナーレの様子。来年のＴＥＪ2027は、今回と同じ東京ビッグサイトで９月23～26日に行われる予定だ